

大学教務実践研究会 教務課題検討フォーラム
2025年12月13日(土)
於:名古屋大学東山キャンパス全学教育棟A館

2a) 学生対応のデザイン ～「知の総和」答申を受けて～

中京大学 教務センター
満田清恵



満田 清恵(みつだ きよえ)

大学職員としての歩み1

2005年4月

国立大学法人愛知教育大学にパートスタッフとして採用となる配属部署はキャリア支援課(3年間の有期雇用)

2007年7月

国立大学法人化後の多様な人材活用の取り組みにより、学内選考による採用試験が実施され、所属長推薦を受け、学内選考の第1期生として正職員となる

その後、法人運営企画課、教育創造開発機構運営課、秘書広報課、総務課、附属学校課(附属名古屋小学校・幼稚園担当)などを経験

大学職員としての歩み2

2016年4月

学校法人梅村学園中京大学に入職

入試広報課(1年)、情報システム課(2年)、中京大学校友会・教育後援会事務センター(3年)を経て、2022年4月から教務センター(現職)

学外活動

・名古屋SD研究会/大学教務実践研究会(2016年～)

ケースを使ったグループワーク 「学生対応のデザイン」

- 学生対応のリアルなケースを通じて考える
- 個人としての対応と組織的課題を整理する
- 明日からの一歩を持ち帰る

「あなたなら、どうしますか？」



ワークの進め方

個人視点10分

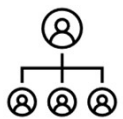
組織視点10分

まとめ 5分



Step1 個人として考える

- ・学生にどんな問いを投げかけるか
- ・部活継続と健康・学習の立て直しをどう考えさせるか
- ・生活背景や健康状態にどこまで踏み込むか



Step2 組織として考える

- ・合理的配慮やリファーマのフローは整備されているか
- ・家族への情報共有にどんな配慮が必要か
- ・組織的な改善点は何か



Step3 まとめ

- ・気づきと明日からの一歩を記入

ワークシートに沿ってグループでご議論ください

まとめと共有



個人としての気づき

- 職員としてできることにはどんなことがあるでしょう
- グループで出た意見で印象に残ったこと



組織としての課題

- 自大学における課題や改善点
- 参考にしたいと感じた仕組みや事柄



明日からの一歩

- ワークを通じて得られたことをもとにできそうなこと、やりたいこと
- 行動ベースで記載してみましょう

ご清聴ありがとうございました

参考文献・参考資料

清水栄子・中井俊樹 編（2022年）大学の学修支援Q&A、玉川大学出版部

中井俊樹 編（2021年）大学教育と学生支援、玉川大学出版部

名古屋大学高等教育研究センター（2007）大学生の学習・発達を支える教務学生担当職員

名古屋大学高等教育研究センター（2007）ティップス先生からの7つの提案 教務学生担当職員編

木村弘志（2023年）大学職員による「上手な」学生対応業務の遂行、大学教育学会誌第45巻第2号、pp.59-68

中井俊樹・宮林常崇 編（2023年）大学の教務Q&A、玉川大学出版部

清水栄子（2024年）スチューデントサクセスを支えるアカデミック・アドバイジング、大学時報pp.80-87

宮口 幸治（2021）どうしても頑張れない人たち~ケーキの切れない非行少年たち2、新潮社

JAAA（日本アカデミックアドバイジング協会） <https://academic-advising.jp/>

筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局（BHE）教職員相談ネットワーク「RADD ネット」 <https://dac.tsukuba.ac.jp/radd/joint-base/raddnet/>